

2013年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

北海道大学

お酒を手にした未成年のあなたへ-断酒会会員と家族からの手紙

【概要】

■ 研究・社会活動の概要

研究題目「お酒を手にした未成年のあなたへ-断酒会会員と家族からの手紙」は、本助成を賜り刊行となった冊子のタイトルである。これを、アルコール依存の問題を抱える当事者とその家族が、未成年飲酒予防に関して、未成年者に伝えたいことは何かを探る資料とさせていただいた。

■ 研究・社会活動の詳細

報告者編集による冊子『お酒を手にした未成年のあなたへ-断酒会会員と家族からの手紙』を刊行した。作成にあたっては、報告者が所属大学で担当している講義「社会問題としての飲酒」（主題別科目「社会の認識」）に毎年ゲストスピーカーとしてご協力いただくなど、日頃から接点の多いNPO法人札幌連合断酒会及び家族会のみなさまを中心に全国各地の断酒会及び家族会のみなさまにご協力いただいた。

内容は、上述のみなさまが、今まさに酒類を手にしようとしている未成年者に何を伝えたいかを手紙形式で呼びかけるメッセージ集である。以下がその目次である。

はじめに

- 1 通め「夢でよかった」五島列島福江島からの手紙
- 2 通め「お酒のどれい」中学生だった長男を支え続ける両親からの手紙
- 3 通め「もうお酒飲まなくていいんだ」新しい人生を歩み始めた私への手紙
- 4 通め「もうお父さんはいない」家族の回復を見守るお母さんからの手紙（一）
- 5 通め「私はアルコール依存症にはならない」家族の回復を見守るお母さんからの手紙（二）
- 6 通め「今も一杯の酒を恐れる娘よ」琵琶湖の南のまちからの手紙
- 7 通め「私のようにならないために」神話のまち、出雲からの手紙
- 8 通め「酒に盗まれた人生のひとつとき」温泉のまち、大分・別府からの手紙
- 9 通め「雪道に残る足跡」酒害を伝えるお父さんからの手紙
- 10 通め「パパが飲んでる時と同じ目」酒害に向き合う東京の家族からの手紙（一）
- 11 通め「飲んでいるお父さんと一緒にいるのはいやだ」酒害に向き合う東京の家族からの手紙（二）
- 12 通め「『どこでもドア』を開けて」十五歳の頃の私への手紙
- 13 通めの手紙（編者より）

感謝をこめて

お返事・ご感想をお待ちしています

ご覧いただきたいサイト一覧

断酒会（公益社団法人全日本断酒連盟下にある各地の断酒会）は原則として「名前を名乗る」自助グループとして知られているが、本冊子においては協力者（未成年者への手紙執筆者）の氏名は公表せず、地域名等を用いることによって執筆者のお立場を表した。特に本冊子内容については、後日、インターネット上での公開を予定していることから個人情報の記載は控えた。一方、地域名の使用は、全国各地の読者が暮らす地域からの身近な情報であるということ、アルコール関連問題はどの地域にも等しくあるということを示すに有効であった。

上の「目次」で示したように内容は全国各地の断酒会につながる12名からの手紙からなるが、その内訳はアルコール依存症回復者からの手紙8通（内、2通は女性の回復者の方による）、ご家族からの手紙4通である。都道府県別の内訳は北海道（4）、東京都（2）、千葉県（1）、滋賀県（1）、大阪府（1）、島根県（1）、大分県（1）、長崎県（1）の各地である。

報告者の解説にあたる「13 通めの手紙」では、報告者が担当する講義「社会問題としての飲酒」の受講者の声、過去10年に渡る調査から確認できるデータなどを盛り込み、報告者が「静かな強要」と呼ぶ日本社会における大学生らの酒席にある状況についても説明を加えた。巻末には、「イッキ飲み防止連絡協議会」「公益社団法人日本キリスト教婦人矯風会」など、問題飲酒根絶に取り組む諸団体のURL 掲載ページ

も設けた。さらに一般にあまり知られていない酒類製造販売企業の未成年飲酒防止を呼びかけるサイトも紹介するなど、アサヒビール株式会社はじめ各社のCSR活動についてもふれた。「あしがき」にあたる「感謝をこめて」では、本冊子がアサヒビール株式会社の社会貢献活動の一つである「未成年者飲酒予防基金」より助成を賜った研究成果の一つであることを紹介した。

■主な寄贈先

- ・ いわゆる「へき地」とされる地域の中学校（29校）・院内学級（3件）

（2013年度ベルマーク助成校を参考にさせていただいた）

- ・ 全国のフリースクール（64団体）

（NPO法人フリースクール全国ネットワークの情報を参考にさせていただいた）

<http://www.freeschoolnetwork.jp/member.html>

- ・ 全国の少年院（52件）、鑑別所（52件）など

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei_kyousei16-04.html

- ・ 全国各地の教育委員会、大学、高等学校など

寄贈にあたっては報告者による送付の他、各地の断酒会会員のみなさまに地域の教育委員会、学校、保健所等にお持ちいただくなどのご協力をいただいた。地域の酒販協同組合にご協力いただいたという例もあった。この他、地域の精神保健福祉センターなど、関心をお寄せいただいたみなさまの手から児童相談所、他の団体にお渡しくださった例もある。ここに改めて感謝の意を表したい（詳細は別紙提出報告書に記載）。

■研究・社会活動の成果

本冊子の刊行は2013 年10 月31 日であったことから、現時点（2014 年2 月）ではまだ成果の全体像の把握は難しい。新聞等のメディアによる紹介記事への反応が確認できるようになったのは2014 年に入ってからである（毎日新聞西部コラム「憂楽帳」、大分合同新聞でのご紹介等）。

一例をあげると、寄贈先の一つ、長崎県立上対馬高等学校には2014 年1 月30 日実施「第3 学年薬物乱用防止講座」の教材として本冊子をご活用いただいた。「これまでの薬物乱用防止講座では大麻などの話が多かったが、身近な薬物アルコールでも飲み方によっては人生が狂うこともあることがわかった」などの感想が寄せられた。さらに断酒会会員のお子様方が、自発的に、通われている学校（高校・大学）に本冊子をご紹介くださったケース等は望外の喜びとなった。今後もこのような一定の教育的効果が確認できるものとする。また、本研究・社会活動の続行により、より具体的な成果のご報告をさせていただくことができれば幸いである。